

アケボノソウ ホチイアオイ

# 植物

鹿児島市の川では353種もの植物が確認されました。たくさんの種類の植物が生育していますが、種によっては厳しい生育環境にあたり、また、一方で在来植物の生育をジャマする可能性のある種も確認されています。ヤナギニガナやシランは生育環境の減少により、数が少なくなっています（合計16種の希少種を確認）。またオオフサモやオオカナダモなど21種の特定・要注意外来生物が確認されました。



●アラカシ：葉に大きなギザギザがあり、裏は白い。秋にドングリが実る。



●クサマオ：別名カラムシ。昔は織物のせんいや薬として利用されていた。



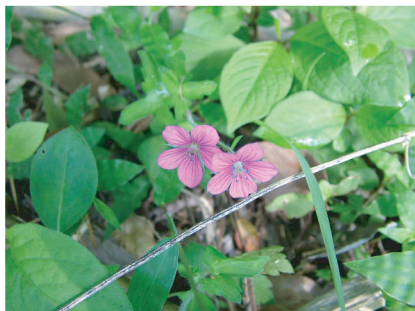
●オオイヌタデ：夏から秋に、白～ピンク色のきれいな花をつける。



●ミゾソバ：川や水路などの水際に多い。葉や花がソバに似ている。



●クズ：つる植物で、赤紫の大きな花をつける。根からクズ粉や薬がとれる。



●ゲンノショウコ：胃薬として、古くは江戸時代から利用されている。



●セイトカアワダチソウ：要注意外来生物。いろいろな場所で生育している。



●ジュズダマ：数珠玉とされ、実はおもちゃとして利用される。お手玉の中身にも。



●セイトカヨシ：高さ4～5mにも育つ。タネは小鳥のエサになる。



●シラン：県RDBで絶滅危惧Ⅱ類に指定。ラン科の中ではわりと丈夫な種類。



●オオカナダモ：要注意外来生物。日本には雄株（おかふ）しかない。



●ツルヨシ：地上を茎（くき）がはって伸びていく。水際のほごに役立つ。



●アキカサゲ：県RDBで準絶滅危惧に指定。生きものたちの、かくれ家になる。



●オオフサモ：特定外来生物。水面をおおるように増え、日光をさえぎってしまう。